様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年５月２０日現在

機関番号：３２６８６
研究種目：若手研究（B）
研究期間：２０１０～２０１２
課題番号：２２７２０２５１
研究課題名（和文）　近代日本のおみやげ文化に関する歴史的研究
研究課題名（英文）　Historic study on Japanese omiyage culture in modern era

研究代表者
鈴木　勇一郎（SUZUKI Yuichiro）
立教大学・立教学院史資料センター・学術調査員
研究者番号：50337862

研究成果の概要（和文）：
現代日本のおみやげ文化は、世界的にみても特徴的なものである。また、歴史的にみても前近代と現代のそれは、大きく異なる。本研究では、鉄道、博覧会、軍隊といった近代的装置との関わりを軸にその形成の過程を明らかにしたものである。
神社仏閣への参詣と密接に関わって生まれた近世のおみやげは、持ち運びしやすく、腐らない非食品に限られていたが、明治時代以降、さまざまな近代的な装置の影響のもとで、近世的な名物菓子が次第におみやげとして商品化されていった。
このように、近代日本のおみやげ文化は、近世日本とも外国とも異なる特異なおみやげ文化を形成していったのである。

研究成果の概要（英文）：
Even if the modern Japanese souvenir culture looks worldwide, I am characteristic. In addition, modern it is different from pre-modern greatly even if I look historically.
In this study, I clarified a process of the formation centering on a railroad, an exhibition, the relation with the modern device such as the armed forces.
It was easy to carry the early modern souvenir which I associated with the prayer to a Shinto shrine Buddhist temple closely, and was created and was limited to the non-food which was not corrupt, but, after the Meiji era, a-like noted product cake was gradually commercialized as a souvenir under the influence of various modern devices in the early modern times.
In this way, the modern Japanese souvenir culture formed specific souvenir culture unlike Japan and the foreign country in the early modern times.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	700,000	210,000	910,000
２０１１年度	500,000	150,000	650,000
２０１２年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・日本史
キーワード：
参詣、みやげ、鉄道、博覧会

１．研究開始当初の背景

日本人にとっては、当たり前となっているおみやげ文化は、世界的にみると特異なものにも関わらず、その研究はほとんど進んでいなかった。

２．研究の目的

日本のおみやげ文化は国際的に見て多くの特徴をもつことが指摘されている。とりわけ欧米人にとっては、これは興味深く映ることが多いようだ。

例えば2001年6月14日から2002年1月13日までロンドンの大英博物館で「現代日本のおみやげ」という企画展が開催されている。これは、現代日本の観光地などで売られているおみやげを収集してきて展示したものであるが、そこで日本人の観光客は次のようなイメージを欧米においてもたれていると指摘されている。

「日本人観光客に関して、西洋に広がっているイメージとして、日本人はパッケージツアーを利用することが多く、一ヵ所に長く留まるよりもいろいろな所を見てまわり、しかも多くの高額なおみやげを買うこと等があります。」(“ Souvenirs in Japan” British Museum 2001)

ここでは日本人の旅文化と特徴がいくつか指摘されているが、おみやげの文化は西欧人の目から見ると極めて特異だというイメージを持たれていることはまちがいない。

実際、外国で出版されたガイドブックには、おみやげに関する記述は非常に少ないのに対して、現在の日本語のガイドブックには、海外用国内用を問わず買い物、おみやげ情報が満載されている。これは英語の代表的な旅行ガイドブックである“Lonely Planet”などと比較するとその差は歴然としていよう。

また日本の少し大きな駅には、必ずといっていいほど売店などで、おみやげが大量に売られている。地方の小さな駅ですら、多少とも拠点となるような駅では、売店でおみやげを扱っている。欧米の駅では、基本的におみやげが日本のような形で売られていることはほとんどないといってよい。

もちろん欧米でもおみやげ屋はあるし、駅ではなくとも国際空港などでは、当然おみやげは売られているが、多くは手工業製品など非食品である。これに対して日本が特徴的なのは、お菓子類など、その土地の名産と称する食べ物類が多いということであろう。もちろん日本でも彫り物や置物や陶磁器など、非食品の製品がおみやげとして売られていることはたくさんあるが、相対的に現在の日本では食べ物の類が多いことは確かだろう。

このように、日本ではその土地の名物とされる食品類が、諸外国と比べて数多く存在することが大きな特徴となっている。

本研究では、主に前近代からある日本のおみやげの近代における変容と展開過程を明らかにすることで、日本社会における伝統的文化と近代化との関係性に新たな位置づけを与えるのみならず、国際比較の中で日本文化の特質を明らかにしていくことを目的とした。

３．研究の方法

（１） 本研究では、できるだけ多くの事例を集めて分析する必要があるため、主に各地の資料館・図書館などに所在する史料を調査した。

（２） その上で博覧会、軍隊、修学旅行、鉄道といった近代的な装置のおみやげ文化との関係性を分析した。

（３） 日本近代史や近世史といった歴史学だけでなく、民俗学や文化人類学、観光学などにも関係するという研究対象の性格に鑑み、これらの諸分野の研究動向のレビューを入念に実施した。

（４） また、口承や聞き取りに依拠せず、文献史料から研究を構成することを心掛けた。

４．研究成果

近代日本におけるおみやげ文化は、近世のそれとも外国とも違うことを明らかにした上で、その形成が近代の産物であったことを明らかにした。

具体的に要点を摘記すると次の通りである。

（１） 近世のおみやげは、腐らず持ち運びしやすい非食品に限られていた。

（２） 近代日本のおみやげは、菓子など、食品が主である。

（３） 従って、近世の名物と近代のおみやげとの間には、大きな落差がある。

（４） 菓子などの食品類がおみやげとして持ち帰りが可能となるためには、
① 鉄道などの交通機関が発達し、旅行時間が劇的に短縮される。
② 品質や容器など、保存性が改良され、持ち運びに適した改良がなされる。
という、条件が必要になる。

（５） 次に地域の名物を全国規模に知名度を拡散させていく必要があるが、これには鉄道のほか、博覧会や軍隊など、近代の装置が、日本の国民国家形成とパラレルとなって大きな役割を果たしたのである。

（６） こうした構造は、前近代からの日本の領域だけでなく、北海道や台湾と

いった新たに領域に組み入れられた地域でも進行し、従来の文化と融合する形で、新たなおみやげ文化を創り出していった。

これまで前近代や個別のおみやげについての研究はなくはなかったが、近代のおみやげ文化の展開を通観した研究は皆無であり、日本近代史や文化史といった歴史学の分野だけでなく、民俗学や文化人類学、観光学など、隣接分野に対してもインパクトのある研究となった。

研究を進める過程で、雑誌論文１本、学会発表１本を発表したが、最終的に単著として成果をまとめることができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
（１）鈴木勇一郎「近代日本の戦争・軍隊と名物おみやげの形成」
『立教史学』3号　2012年2月, p1～16, 査読なし

〔学会発表〕（計１件）
（１）鈴木勇一郎「近代伊勢参宮と赤福の展開」
交通史学会大会, 2012 年 5 月 12 日, 於福岡市博物館

〔図書〕（計１件）
（１）鈴木勇一郎『おみやげと鉄道―名物で語る日本近代史』
講談社　2013 年 2 月、286 頁

〔その他〕
本研究の成果は、2013年2月に発表した『おみやげと鉄道―名物で語る日本近代史』講談社刊で発表したが、その成果は学界だけでなく一般社会でも大きな反響を呼んでいる。

現在のところ、主な報道およびアウトリーチ活動は、現在のところ次の通りである。

（１）2013 年 3 月 10 日　『週刊プレイボーイ』3 月 10 日号　「「本」人襲撃」
『おみやげと鉄道』著者としてインタビューを受ける。

（２）2013 年 3 月 17 日　『朝日新聞』読書欄「著者に会いたい」
『おみやげと鉄道』著者としてインタビューを受ける。

（３）2013 年 3 月 17 日　TBS－BS「サキドリ！」「サキドリブックス」
『おみやげと鉄道』著者として番組に出演。

（４）2013 年 3 月 21 日　東海ラジオ
「安蒜豊三夕焼けナビ」
『おみやげと鉄道』著者としてインタビューを受ける。

（５）2013 年 3 月 24 日 RKB 毎日放送
『こだわりハーフタイム』
『おみやげと鉄道』著者としてインタビューを受ける。

（６）2013 年 3 月 26 日　静岡エフエム放送
「K-MIXCARAMEL POCKET」
『おみやげと鉄道』著者としてインタビューを受ける。

（７）2013 年 3 月 31 日　TBS ラジオ
『安住伸一郎の日曜天国』『おみやげと鉄道』著者として番組に出演。

（８）2013 年 4 月 14 日　『しんぶん赤旗』読書欄「本と人と」
『おみやげと鉄道』著者としてインタビューを受ける。

（９）2013 年 4 月 19 日　『エコノミスト』第 91 巻　第 17 号　通巻 4282 号
井上寿一氏による書評記事「〔書評〕歴史書の棚　近代化が生んだ日本のお土産文化」でとり上げられる。

（１０）2013 年 5 月 3 日　読売テレビ
「かんさい情報ネット ten！」『金曜企画　カラクリ』「日本人がお土産を買うカラクリ」
近代のおみやげの歴史についてインタビューを受ける。

（１１）2013 年 5 月 5 日　『東京新聞』読書欄
読書欄で『おみやげと鉄道』が紹介される。

（１２）2013 年 5 月 16 日
『福井新聞』朝刊コラム「越山若水」で、『おみやげと鉄道』が紹介される。

（１３）2013 年 6 月 13 日～　『聖教新聞』連載。「おみやげ好きの日本人」（確定）。
本研究を生かす形でおみやげの歴史の紹介記事を執筆。

（１４）2013 年 6 月 22 日　静岡放送
「山田辰美の土曜日はごきげん」（確定）。
『おみやげと鉄道』著者としてインタビューを受ける。

（１５）2013 年 7 月 20 日　朝日カルチャーセンター湘南教室　「鉄道から見たおみやげ」講師（確定）。

（１６）2013 年 8 月 26 日～11 月 24 日
旧新橋停車場鉄道歴史展示室企画展「おみやげと鉄道」監修（監修はすでに実施）。

（１７）2013 年 9 月（確定）
虎屋文庫研究紀要『和菓子』に「近代日本の名物とおみやげ」と題して、

科研費での研究成果をもとに論文を執筆。

（１８） 2013年12月（確定）
財団法人東日本鉄道文化財団主催「鉄道を通して見る日本の近代」研究会（座長高階秀爾）による論文集に、科研費での研究成果をもとにした文章を執筆。

６．研究組織

(1)研究代表者
鈴木　勇一郎（SUZUKI Yuichiro）
立教大学・立教学院史資料センター・学術調査員
研究者番号：50337862

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし